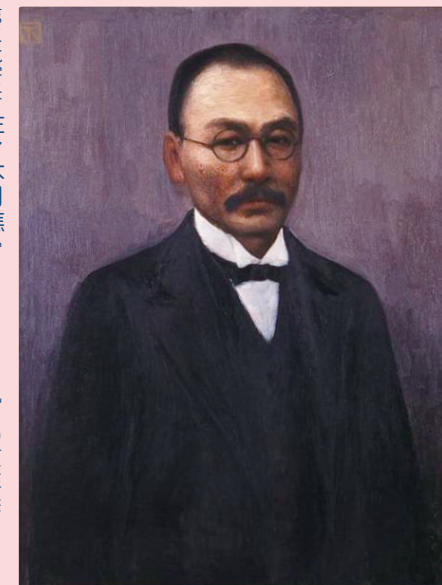


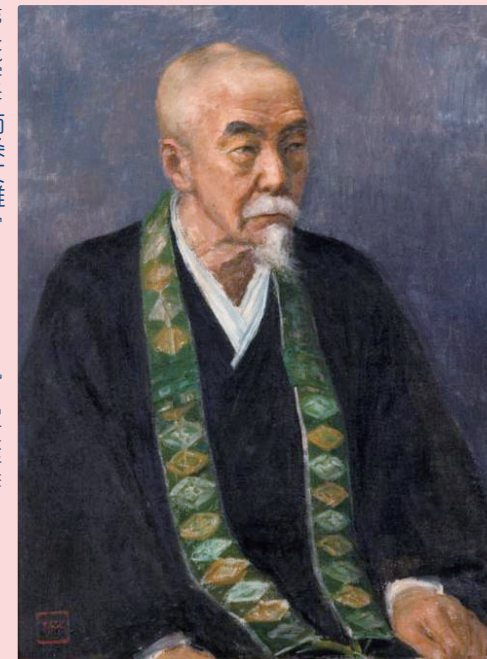
大谷大学のあゆみ



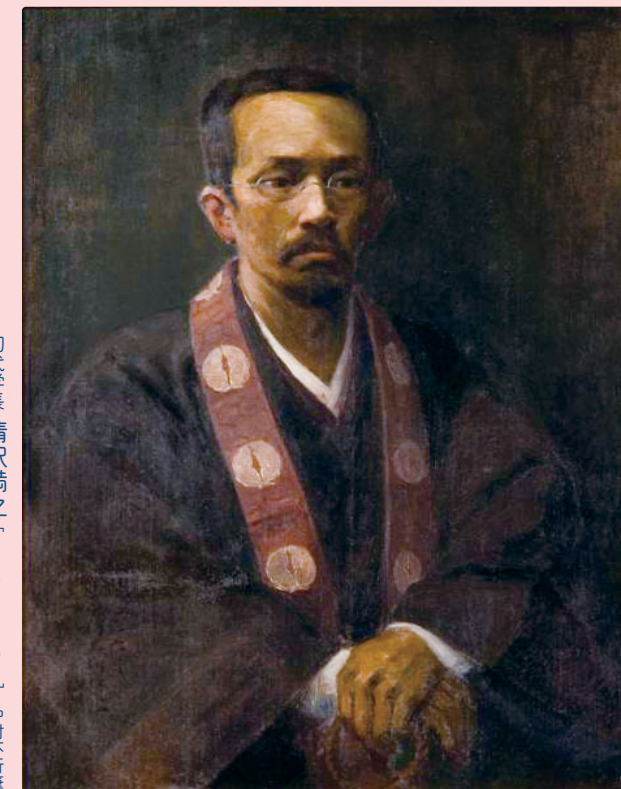
第三代学長 佐々木権 [1875-1926] 中村不折筆

2021 4/2 fri ~ 5/15 sat

第二代学長 南条文雄 [1849-1927] 中村不折筆



初代学長 清沢満之 [1863-1903] 中村不折筆



歴代学長の肖像

明治

大正

昭和

休館日
日・月曜、5月4日(火)・5日(水)
[ただし5月10日(月)は開館]

開館時間
本学学生・教職員 = 10:00-17:00
(入館は16:30まで)

一般 = 10:30、13:00、14:00、15:00
の事前予約制

観覧料無料

大谷大学博物館

Otani University Museum

事前予約制

*予約方法については裏面をご覧ください。



[1875-1971]

11-1 曾我量深肖像 1面
キャンバス・油彩 高光一也 筆
昭和時代(昭和37年=1962)
大谷大学蔵

第17代学長曾我量深(在任期間:1961~67)の肖像。曾我は明治36年(1903)に清沢満之が結成した浩々洞に入り、翌年には真宗大学教授となる。後に仏教雑誌「精神界」の編集担当となるなど、清沢の教学を継承した近代教学の大成者として評される。

11-2 曾我量深墨蹟 1幅
紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)

曾我量深の書。「至徳風静」は、親鸞の著作『教行信証』行巻の一節「至徳の風静かに衆禍の波転ず」からとられた文。至徳とはこの上ない徳ということで念仏をさし、念仏のはたらきによって静かな世界に至ることができるという意味。



[1909-1973]

12-1 安藤俊雄肖像 1面
キャンバス・油彩 下村良之介 筆
昭和時代(昭和53年=1978)
大谷大学蔵

第19代学長安藤俊雄(在任期間:1970~73)の肖像。安藤は天台学を専門とし、特に中国天台の研究にすぐれた業績を残した。昭和45年(1970)学長に就任し、昭和48年(1973)在職中に急逝。本品は当時短期大学の教授であった下村良之介(1923~98)の筆になる。

12-2 安藤俊雄自筆草稿 1冊
紙本インク書
昭和時代(昭和47年=1972)

安藤俊雄の自筆草稿。『浄土の諸問題』(大谷大学真宗学総合研究班編『研究紀要』第1号)に寄せた発刊の辞。200字詰め原稿用紙6枚にわたり、真宗学の由来や課題が述べられている。



[1895-1976]

9-1 山口益肖像 1面
キャンバス・油彩 高光一也 筆
昭和時代(20世紀)
大谷大学蔵

第15代学長山口益(在任期間:1950~58)の肖像。山口は大谷大学所蔵の北京版チベット大蔵経に刺激を受けて、サンスクリット語・チベット語・漢語との対照研究につとめた。昭和2年(1927)にはフランスへ留学、インド哲学・仏教学を研鑽し、帰国後は日本を代表する仏教学者として活躍した。

9-2 山口益墨蹟 1幅
紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)

山口益の書。「華嚴経」の一節「信為道元功德母(信は道の元、功德の母なり)」を記したもの。うたがいなき真実の信心こそが悟りの根本であり功德を生む母であるという意味。



[1895-1969]

10-1 正親含英肖像 1面
キャンバス・油彩 吉田達磨 筆
昭和時代(20世紀)
大谷大学蔵

第16代学長正親含英(在任期間:1958~61)の肖像。正親は、大正13年(1924)真宗大谷大学を卒業し、大正15年(1926)より教授を務めた。

10-2 正親含英墨蹟 1幅
紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)

正親含英の書。「白雲一片去悠々(白雲一片去りて悠々)」とは、中国唐代に活躍した詩人張若虚の代表作「春江花月夜」の一節。長江の夜景を詠ったもので、白い雲がひとひら遙かかなたへと去っていく様子を詠んでいる。

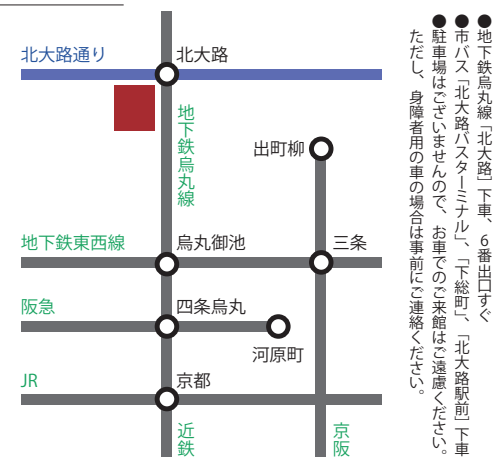
一般来館者の予約方法

ご来館にあたっては、事前予約が必要となります。 ※本学学生および教職員は予約不要です。

- ご予約は、当館ホームページの予約フォームあるいはFAXにて受け付けます。電話では予約できません。
- 予約フォームの場合…来館希望日前日の12:00までに予約フォームよりお申し込みください。 [@airrsv.net] のドメインを受信可能にしてください。
- FAXの場合…来館希望日の3日前まで(5/6㊟ご来館希望の場合は4/30㊟まで)に当館へお申し込みください。当館からの返信をご確認ください。
- 受付完了メールあるいは当館からの返信FAXがない場合には、お手数ですがお問い合わせください。
- ご予約の際には、ご来館希望日時・お名前・ご連絡先電話番号・メールアドレスまたはFAX番号をお知らせください。
- ご予約いただける時間は、火~土曜日の10:30、13:00、14:00、15:00です(ただし5/4㊟・5㊟は休館)。日・月曜日は休館ですので、ご注意ください。
- 当館ホームページに掲載の「ご来館にあたってのお願い」をご一読いただき、検温等にご協力ください。
- 10名以上でのご来館は、ご遠慮ください。

開館日	2021年4月							2021年5月							
カレンダー	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	
						1	2	3							1
	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	
								30	31						

■ 開館(10:00-17:00)
□ 休館
※開館日および開館時間は変更になることがあります。



大谷大学 京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

大谷大学博物館

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町
響流館1F
Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学は明治34年（1901）に東京巢鴨で開学した真宗大学にはじまり、大正2年（1913）には京都市小山の地に移転し、現在に至ります。

本展覧会では、明治・大正・昭和の歴代学長の肖像とその遺品を紹介します。

学長は、初代学監（学長）清沢満之から現在まで28代を数えます。その肖像は、学恩を受けた人びとの感謝の意と師を懐かしみ顕彰する思いから制作されたものです。いずれも当時交流のあった画家によって描かれており、往時は旧講堂に掛けられていました。

これらの肖像を通じて、大谷大学の歴史と大学の発展のために力を尽くした方々の思いに触れていただければ幸いです。

歴代学長の肖像

- 1-1 **清沢満之肖像** 1面
キャンバス・油彩
中村不折 筆
明治時代(明治38年＝1905)
大谷大学蔵

初代学長清沢満之（在任期間：1901～02）の肖像。清沢は東京大学で宗教哲学を学んだ。代表的著作『宗教哲学骸骨』は、明治26年(1893)のシカゴ万国宗教大会で英訳され、好評を博した。また、雑誌『教界時言』の発刊や私塾浩々洞の結成など、宗門改革や人材の養成に尽力した人物としても知られる。

- 1-2 **「我は此の如く如来を信ず」（我信念）** 10枚
紙本インク書
明治時代(明治36年＝1903)

清沢満之の絶筆で、清沢の宗教的自覚の頂点を表す論考。誠実に生きようとすることがゆえに悪戦苦闘し、身動きがとれなくなっていた清沢をして、虚心平氣にこの世界に生死することができる自己へと転ずる働きが清沢にとっての「如来」であったという。



- 1-3 **『精神界』** 1冊
紙本活版
明治時代(明治42年＝1909)

清沢満之が結成した浩々洞が発刊した雑誌。明治34～大正8年(1901～19)に刊行されていた。仏教の真意を平易な言葉で、一般の人に伝えることを願いとして刊行された。装画は清沢らの肖像を描いた中村不折のデザイン、表題の三文字は中国初唐の三大書家の一人褚遂良の書から採字されたもの。

- 1-4 **『臙扇記』** 2冊のうち複製（原本：紙本墨書）
明治時代(明治32年＝1899)
大谷大学図書館蔵

歴代学長の肖像

大谷大学のあゆみ

清沢満之自筆の日記。明治31年(1898)8月15日から翌年4月5日にかけて記されたもの。「臙扇」とは「無用のもの」という自戒の言葉であり、失意と煩累の中で日々の出来事とその時々去来した思想や信念が吐露されている。原本は清沢が入寺した西方寺(愛知県)に所蔵されている。

- 2-1 **南条文雄肖像** 1面
キャンバス・油彩
中村不折 筆
大正時代(大正8年＝1919)
大谷大学蔵

第2代学長南条文雄（在任期間：1903～11・14～23）の肖像。後に第3代学長となる佐々木月樵の勧めにより南条の古稀（数え年70歳）を記念して描かれたもの。南条はサンスクリット(梵語)の研究者として知られ、明治21年(1888)には日本最初の文学博士号受領者の一人となっている。

- 2-2 **南条文雄墨蹟** 1幅
紙本墨書
大正時代(大正10年＝1921)

南条文雄の書。南条は数多くの墨蹟を残しており、本品もその一つ。「端心正意光明在朽林頑石雨露均」と書されている。「端心正意（心を端しくし意を正しくして）」は『仏説無量寿経』の文である。

- 2-3 **『碩果航西詩帖』** 1帖
紙本墨書
大正時代(大正10年＝1921)

大谷大学図書館蔵
南条文雄が、明治9～17年(1876～84)のイギリス留学中に作成した漢詩の中から20首を選び手書きした詩帖。碩果は南条の号。大きい果実を意味する言葉で、生地の大垣(岐阜県)にちなんでいる。

- 3-1 **佐々木月樵肖像** 1面
キャンバス・油彩
中村不折 筆
大正～昭和時代(20世紀)
大谷大学蔵

第3代学長佐々木月樵（在任期間：1924～26）の肖像。佐々木は明治33年(1900)に真宗大学(大谷大学の前身)を卒業し、清沢満之の浩々洞結成に加わり『精神界』発刊にも尽力した。また、清沢の紹介により真宗大学の講師を務め、後には教授となる。大正10年(1921)には大正自由主義教育運動の中心的人物であった沢柳政太郎と欧米の教育・宗教事情を視察している。

- 3-2 **佐々木月樵墨蹟** 1幅
紙本墨書
明治～大正時代(19～20世紀)

佐々木月樵の書。中国浄土教の高僧善導の著作『法事讃』の一節「從仏逍遙歸自然(仏に従い逍遙し自然に歸す)」を記したもの。

- 3-3 **「大谷大学樹立の精神」** 1冊
紙本インク書
大正時代(大正14年＝1925)

大正14年(1925)の入学宣誓式における佐々木月樵の告辞の自筆原稿。220字詰め原稿用紙17枚にわたる。佐々木はこのなかで、仏教の学界への解放、教育を通じた仏教の普及、宗教的人格の陶冶という大谷大学の目指す三つの目標を示し、建学の理念を表明した。

大谷大学のあゆみ

- 4-1 **村上專精肖像** 1面
キャンバス・油彩
白滝幾之助 筆
昭和時代(20世紀)
大谷大学蔵

第4代学長村上專精（在任期間：1926～28）の肖像。村上はインド哲学の研究者として曹洞宗大学林（現・駒澤大学）・哲学館（現・東洋大学）・東京帝国大学の講師などを歴任する傍ら、『大日本仏教史』を刊行するなど仏教史研究の道を開いた。また、明治34年(1901)に提唱した「大乘仏教非仏説」は仏教界に一大旋風を起こした。

- 4-2 **村上專精墨蹟** 1幅
絹本墨書
大正時代(大正4年＝1915)

村上專精の書。中国清代前期の詩人である屈復の五言絶句を記したもので、「百金買駿馬 千金買美人 万金買高爵 何処買青春」とある。「速く走る馬や美人や高い地位は相応の金を出せば得られるが、青春はどこで買う事が出来るのか」というもので、青春の大切さを詠った詩。

- 5-1 **稲葉昌丸肖像** 1面
キャンバス・油彩
須田国太郎 筆
昭和時代(昭和8年＝1933)
大谷大学蔵

第5代学長稲葉昌丸（在任期間：1928～31）の肖像。稲葉は明治22年(1889)に25歳で京都府尋常中学（現・大谷高校）校長に就任するなど人材の育成に携わる一方で、清沢満之らとともに東本願寺の寺務改革運動にも参加した。晩年には本願寺第8代蓮如の史的研究に没頭し多くの業績を残している。

- 5-2 **『蓮如上人行実』原稿** 3冊のうち
紙本インク書
昭和時代(20世紀)

稲葉昌丸が編纂した、本願寺第8代蓮如の言行に関わる記録の史料集『蓮如上人行実』の原稿。昭和3年(1928)に出版されて蓮如研究の史料集として重要な役割を担った。

- 5-3 **稲葉昌丸墨蹟** 1幅
紙本墨書
昭和時代(20世紀)

稲葉昌丸の書。「跣踏於城市紛鬧之衢 不知春秋之偉 逍遙於田園曠之地 実見化工之無窮」とは、騒がしい世間(城市紛鬧)のなかで気兼ね(跣踏)しているならば、歳月の大切さなどを知ることできないが、田園などの広々としたところを歩けば大自然の摂理(化工)の偉大さ(無窮)に出会えるという意味。

- 6-1 **上杉文秀肖像** 1面
キャンバス・油彩
須田国太郎 筆
昭和時代(昭和10年＝1935)
大谷大学蔵

第6代学長上杉文秀（在任期間：1931～34）の肖像。上杉は大谷大学の前身である真宗大学で山田文昭(仏教史学)・楠潜龍(真宗学)らに学んだ。明治34年(1901)に真宗大学教授となり、その後、京都帝国大学(現・京都大学)などの講師も歴任した。

- 6-2 **上杉文秀墨蹟** 1幅
紙本墨書
昭和時代(昭和5年＝1930)

上杉文秀の書。真宗で七高僧の一人に数えられる中国浄土教の高僧善導の著書『往生礼讃』の偈文「徳水分流尋宝樹 聞波觀衆証恬怕 寄言有縁同行者 努力翻迷還本家」を記したもの。上杉は昭和5年の夏安居で『往生礼讃』を講義している。

- 7 **関根仁応肖像** 1面
キャンバス・油彩
黒田重太郎 筆
昭和時代(昭和19年＝1944)
大谷大学蔵

第11代学長関根仁応（在任期間：1941～43）の肖像。関根は真宗大学学生であった明治29年(1896)、清沢満之らの東本願寺寺務改革運動に参加して退学処分となるが、その後復学し、昭和11年(1936)からは大谷派宗務総長も務めた。

- 8-1 **大谷瑩誠肖像** 1面
キャンバス・油彩
太田喜二郎 筆
昭和時代(昭和24年＝1949)
大谷大学蔵

第13代学長大谷瑩誠（在任期間：1944～48）の肖像。大谷は東本願寺第22代現如(大谷光瑩)の次男。京都帝国大学で内藤湖南に師事し東洋学を修め、大正13年(1924)から2年間フランスへ留学し、中国古文書とくに敦煌古文獻の研究に従事した。

- 8-2 **中国古印** 20顆のうち
銅製
中国・後漢時代(1～3世紀)

大谷瑩誠が蒐集した中国後漢時代の古印。瑩誠は東洋関係の資料の蒐集を行っており、そのコレクションは「禿庵文庫」として当館に所蔵されている。そのなかには古印をはじめ、封泥、硯、拓本など重要文化財を含む貴重な資料が多数存在する。

- 8-3 **『近世説美少年録』** 5冊のうち
紙本墨書
江戸時代(文政11～12年＝1828～29)

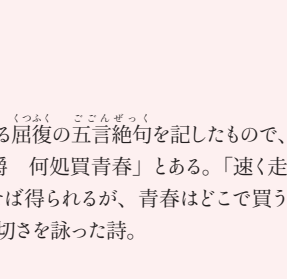
『南総里見八犬伝』などで知られる、曲亭(滝沢)馬琴の作品『近世説美少年録』の自筆草稿本。戦国時代の武将毛利元就と陶晴賢に擬した美少年と悪少年の対立を描く物語。馬琴による推敲の過程がよくわかる。本品も「禿庵文庫」の一つである。

- 8-4 **大谷瑩誠墨蹟** 1幅
紙本墨書
昭和時代(20世紀)

大谷瑩誠の書。「真如一実之信海」とは、浄土真宗の宗祖親鸞の著作『教行信証』信巻の文である。瑩誠の薫陶を受けた第18代学長野上俊静は、その書を「気品のあるみごとなのである。それは、天性によるというよりも、よく習得されたところからでてきた格調たかいものである」と評している。



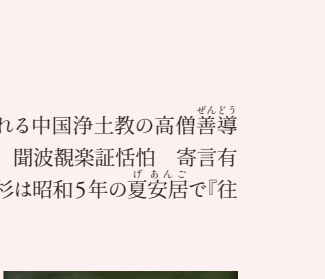
[1851-1929]



[1865-1944]



[1867-1936]



[1868-1943]



[1878-1948]